

氏名	甲 康 成
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3641号
学位授与の日付	平成13年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Time Course Changes of Nerve Conduction Velocity in Idiopathic Carpal Tunnel Syndrome after Endoscopic Surgery (鏡視下手術を施行した特発性手根管症候群における神経伝導 速度の経時的変化)
論文審査委員	教授 松井 秀樹 教授 阿部 康二 教授 小川 紀雄

学位論文内容の要旨

手根管症候群においては、診断、重症度、治療成績いずれも臨床所見が主であり、客観的所見に乏しい。電気生理学検査は客観的評価であり、補助診断として広く使用されているが臨床症状の重症度とは必ずしも一致しないとされており、長期追跡調査の報告は非常に少ない。本研究では、鏡視下手術後12カ月以上追跡できた特発性手根管症候群41例55手を対象に、術前術後の神経伝導速度検査と治療後の臨床成績とどのくらい相関があるのか、また術後早期に成績不良例を神経伝導速度検査でみきわめることができるかを検討した。症状が全快した症例でも神経伝導速度が正常にまで改善しなかった症例が約77%もあった。また最終時を除いては神経伝導速度と治療成績とは明確な相関は認められなかった。しかし成績不良例は全て術前、運動神経伝導速度または知覚神経伝導速度が導出されず、術後1カ月での検査でも導出されないままであることが本研究で明らかになった。

論文審査結果の要旨

手根管症候群の患者に対し鏡下手根管開放術を行っているが、その手術成績評価や予後予測のための客観的方法を模索するため本研究を行った。鏡下手根管開放術実施症例の術前術後の電気生理学的検査を経時的に行いその変化と臨床成績との相関を検索した。術前のDML(遠位潜時)かSCV(知覚神経伝導速度)が導出不可であり、術後一ヶ月でも導出できない症例はその後の予後不良であり、神経伝導速度の経時的変化測定は予後予測に有用との結論を得たもので価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。